

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月11日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520439

研究課題名（和文） ルカイ語と関連諸語のフォーカス体系に関する実証的研究

研究課題名（英文） Empirical studies on the focus system in Rukai and related languages

研究代表者

片桐 真澄 (KATAGIRI MASUMI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：80294388

研究成果の概要（和文）：

台湾原住民諸語のひとつであるルカイ語および、他の台湾原住民諸語やフィリピン諸語、インドネシア諸語などの関連諸語について、そのフォーカス体系の実態を調査した。その結果、豊富な文交替を許す、いわゆるフィリピン・タイプのフォーカス体系のあり方には差異が見られ、例えばタガログ語（フィリピン）やパイワン語（台湾）がフィリピン・タイプの典型だとすると、ルカイ語は一見対格型体系に近い、非常に限られたフォーカス体系を有することがわかった。これは、バリ語（インドネシア）にも類似した現象が見られ、フォーカス体系の縮小という観点で捉えることによってフィリピン・タイプの諸言語を統一的に捉えることができることを示唆した。

研究成果の概要（英文）：

This study concerns the nature of focus system in Rukai, one of the Formosan languages, and other related languages such as other Formosan languages, Philippine languages, and Indonesian languages. As a result, it has turned out that the ways the so-called Philippine-type focus systems are, which allow rich voice alternations, differ among different languages. For example, if Tagalog (Philippine language) and Paiwan (Formosan language) are considered possessing prototypical Philippine-type focus system, Rukai possesses very limited system, similar to accusative-type system. This type of limited focus system is also observed in Balinese (Indonesian). This suggests that a unified account of differences among these languages can be made in terms of the notion of attrition of the Philippine-type focus system.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 2010年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2011年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：危機・少数言語

1. 研究開始当初の背景

近年の類型論的言語研究における中心的課題のひとつとして、オーストロネシア諸語に見られるフィリピン・タイプと呼ばれるフォーカス体系の解明がある。これは、フィリピン諸語をはじめ、台湾原住民諸語、インドネシア諸語などに観察されるが、その本質は未だ明らかになっていない。このうち、よりオーストロネシア祖語に誓い純粋な体系を保持しているとされる台湾原住民諸語の多くは、豊富なフォーカス体系を維持しているが、その中であってルカイ語は、一見対格型と類似する限定的な体系を有するという点で特異な位置を占めている。一方、Shibatani (2005) は、従来の対格型・能格型という区分ではなく、東インドネシア諸語に見られる類似した限定性をフォーカス体系の縮小という概念によって捉えようとした。本研究は、この縮小という概念をひとつの手がかりとし、ルカイ語の言敵的なフォーカス体系を他の関連諸語と比較・対照することにより、最終的にフィリピン・タイプのフォーカス体系の多様性を統一的に捉える仕組みを探るものである。

2. 研究の目的

本研究は、ルカイ語およびその関連諸言語のヴォイス（あるいはフォーカス）体系の多様性を統一的に捉える体系的な仕組みを構築することを目的とする。ルカイ語は、台湾原住民諸語の中にあって特異な位置を示し、他の台湾原住民諸語がいわゆるフィリピン・タイプと呼ばれる豊富なフォーカス体系を持ち、能格型言語に特徴的な対象優位性を示すのに

対し、ルカイ語は能動・受動という対格型に近いように一見見える。しかしながら、他の言語に目を向けると、フィリピン諸語やインドネシア諸語にも典型的なフィリピン・タイプのフォーカス体系を持ち強い対象優位性を占め少数言語から、インドネシア語のバリ語のように縮小的なヴォイス体系を持つ言語が存在する。このことから、ルカイ語を、対格型、非フィリピン・タイプのように位置づけるのではなく、縮小という概念を手がかりとして他の関連諸語と統一的に捉えることが可能であると考えられる。さらに、それによって、今日の類型論的言語研究の課題のひとつである、フィリピン・タイプのフォーカス体系の多様性や本質の解明に手がかりがあると考えられる。

3. 研究の方法

本研究は、ルカイ語のフォーカス体系に関する実証的研究、②他の関連諸語との比較・対照、③フィリピン・タイプのフォーカス体系の多様性に関する統一的な説明という三部構成から成る。したがって、本研究の遂行にあたっては、第一に現地調査によるルカイ語のデータ収集、特にフォーカスの選択には文脈が重要な要因となるため、ルカイ語のテキストや談話の収集と分析が必要である。現地調査では、母語話者のインフォーマントとの作業により、質問票によるデータおよび語りや談話などの自然発話によるデータを収集する。また、既存の文献資料からもデータを収集する。次に、他の台湾原住民諸語やフィリピン諸語、インドネシア諸語など関連諸語の資料を収集・分析する。資料収集は主に文献

資料によるが、適宜質問票による現地調査も行う。そして、最終的には、ルカイ語と他の関連諸語のフォーカス体系のあり方を比較・対照することにより、フィリピン・タイプのフォーカス体系の多様性を統一的に捉える仕組みを考察する。

4. 研究成果

台湾原住民諸語の中にあって類型的に特異な位置を占め、フィリピン・タイプのフォーカス体系を持たないと見なされてきたルカイ語を、フィリピン・タイプのフォーカス体系の縮小という概念により他の関連諸語と統一的に捉えようとする点で独創的であると言える。また、台湾原住民諸語については、台湾の研究者を中心に盛んに研究が行われているが、それらの研究の多くは個別的・記述的な研究や、台湾原住民諸語内での比較や類型化にとどまり、フィリピン諸語やインドネシア諸語など他のフィリピン・タイプの諸言語との関係においてはほとんど研究されてこなかった。特に、ルカイ語は対格型であるとされ、フィリピン・タイプとは異なるとされてきた。しかしながら、例えば系統的にも地理的にも密接な関係にあるパイワン語のような言語とルカイ語を、前者は能格型でフィリピン・タイプ、後者は対格型で非フィリピン・タイプというように類型的には全く異なるものとして捉えるのは、いかにも不自然である。その一方で、台湾原住民諸語のルカイ語の体系に、インドネシア諸語のバリ語などに見られる限定的なフォーカス体系との類似が見られるということは非常に興味深いことである。これらのことから、本研究は、類型的に特異であるとされてきたルカイ語を中心に据えて、他の台湾原住民諸語のみならず、フィリピン諸語やインドネシア諸語などとの比較・対照を

行い、それらを統一的に捉える試みを行ったと言う点で、斬新な研究であると考えてる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

①片桐真澄、タガログ語の人魚構文に関する展望、岡山大学紀要、査読なし、54号、2010、109-125

〔学会発表〕(計2件)

- ① 片桐真澄、近くて遠い、遠くて近いフィリピンのことばタガログ語と日本語、国立国語研究所第五回N I N J A Lフォーラム、2012年3月24日、一橋記念講堂
- ② 片桐真澄、フィリピン諸語における行為者ヴォイス文の解釈—原型的な受動文との相違、インドネシア諸語研究会、2010年3月29日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所
- ③ Masumi Katagiri, Word order variation in Tagalog, 11th International Conference on Austronesian Linguistics, 2009年6月22-25日、Aussois, France

〔図書〕(計1件)

Masumi Katagiri, et al., edited by Tasaku Tsunoda, John Benjamins, The mermaid constructions, forthcoming.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片桐 真澄 (KATAGIRI MASUMI)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准
教授
研究者番号：80294388

(2) 研究分担者

()
研究者番号：
()
研究者番号：
()
研究者番号：
()
研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：